

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第48号

令和3年9月7日発行
発行/千葉県がんセンター

基本理念

私たちは、心と体にやさしく、希望の持てるがん医療を提供します。

巻頭言



千葉県がんセンターの現況について

千葉県がんセンター病院長 飯笹 俊彦

新型コロナウイルスの脅威は、人々の予想をはるかに超え、一年以上に及ぶ長期戦になっております。度々緊急事態宣言が発出され、異例の速さでワクチンが開発され、様々な政策が実行されておりますが収束には程遠い状況です。これが感染症の怖さなのだと痛感させられます。

千葉県がんセンターでは、昨年10月に新病院が開院いたしました。しかし新型コロナウイルスの蔓延に伴い、新型インフルエンザ等対策特別措置法により敷地内に残る旧病院一部を使って臨時医療施設も運営しております。臨時医療施設は入院受け入れのみで、新病院とは出入口、動線が完全に異なり新型コロナウイルスが臨時医療施設から新病院に持ち込まれることはありません。当初臨時医療施設では軽症・中等症の介護度の高い高齢者を受け入れていましたが、高齢者へのワクチン接種普及に伴い、このような患者さんは大変少なくなりました。このため全年齢層の軽症・中等症患者さんに入院していただいております。

さらに千葉市よりワクチン接種基幹病院の指定をうけ、がん治療に支障がでないよう通院中のがん患者さんに対し、また地域貢献として一般の希望者も含め5000件以上

の接種を行ってまいりました。日常業務のなかこのような事業を展開するのは容易ではありません。しかし平日午後交代で初期研修医や各部署よりお手伝いをいただくことによりこれを可能としました。実際、市中感染者が多くなり、当院通院中の患者さんも新型コロナウイルスに感染し、対応しなければならなくなっております。このような取り組みは専門病院として大きな負担にはなるものの、患者の皆さんに安心して早期にがん治療を受けていただける機会を提供できると考えています。

新病院でのがん診療は、コロナ禍のなかほぼ順調に稼働しております。臨時医療施設へのスタッフ派遣などもあり一看護単位は閉鎖せざるを得ませんが、他の病棟の稼働をあげるにより、がん診療に滞りのないよう対応しております。全職員の協力により新型コロナウイルス感染症診療、ワクチン接種が進められていることに私は心から感謝しております。職員の新型コロナウイルス感染症に対する意識は高く、がん診療は多忙となっておりますが個々の負担感は分散されているものと考えます。

千葉県がんセンターは、がん患者の皆様感染症管理に最大限配慮しながら、先進的ながん医療を提供して参りますので、皆様のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

臨床の現場から

臨時医療施設での勤務

医療局長 高山 亘

臨

時医療施設の開設が決まり、1月中旬より医師の配置について協議を行なわれました。第1クール（1クール3ヶ月）は、呼吸器外科、

脳外科の先生を中心に、足りないところを食道胃腸外科、肝胆膵外科、消化器内科、泌尿器科の先生にお手伝い頂き、担当表を作成。夜間はオンコール体制で、飯笹先生、藤里先生、田中先生、石川先生、高山で当番を決め対応することにしました。令和3年2月5日東3階病棟で診療開始。開院当初はほとんどが高齢者で入院患者は10名から15名前後で推移しました。ワクチンは未接種の状態でしたが、徹底した感染対策、防護服着用の上での診療でしたので、感染に対して不安を感じることなく従事できました。出番の医師の仕事は、朝の回診、診療録記載、午後のカンファレンス（治療法に関しては菅原先生の指示にて行ないました。）、新規入院患者の出迎え、問診等が主で、新規入院患者がいない日は、正直暇でした。（他の事務仕事ができて、貴重でした。）

5月から第2クールに入り、ワクチン接種が終わり、臨時医療施設の仕事にも理解が進み、多数の診療科にご参加を頂きました。この頃より65歳以下の比較的若い患者さんの入院も増えだし、趣も異なってきました。5月中旬頃、大坂の感染爆発を契機に、東4階病棟のopenに向けて動きだしました。こども病院より看護師

さんが派遣され、6月14日東4階開棟。開棟後は、入院患者さんは20人前後となり、医師は同じく2名体制で勤務し、多少忙しくなりました。7月に入ると高齢者のワクチン接種が進んだ関係からか、ほとんどが60歳以下の患者さんとなり、重症化した場合は速やかに転院できるように注意深く治療していきました。

ワクチン接種が進んでも新型コロナの患者さんは減少せず、オリンピックが終わるまでは現体制を維持することとし、7月下旬からの第3クールの医師配置を行ないました。

オリンピックが始まる頃には千葉の患者数は激増し、臨時医療施設の患者さんも30名前後になり、ほとんどの患者さんが酸素を投与されホテルや自宅から搬送されてきています。現在は、他院の重症病床はほとんど埋まり、自力でなんとかするしかない状況が生まれています。ネーザルハイフローも大活躍でほぼfull稼働の状態です。新規入院患者も4名平均であり、医師の仕事もなかなか大変になってきました。医師事務さんがいないので退院サマリーの記載も負担です。

臨時医療施設の患者さんは、2週間以内に退院していきます。ほとんどの患者さんが歩いて、酸素なしで帰って行きます。菅原先生、藤里先生を始め臨時医療施設のスタッフは、協力して新型コロナ感染症の治療に邁進しており、呼吸苦で苦しんでいた患者を元気に退院させております。大変良い成績だと感心しております。

正直こんなに長く臨時医療施設が開院しているとは予想しておらず、感染症の怖さを痛感しています。終わりの見えない新型コロナ感染症との戦いですが、新病院のグランドオープンのためにも、きっちり片をつけ、日々の日常を取り戻したいと考えています。



いざ、レッドゾーンへ



関門、N95マスクのフィットテストをクリアしないと入れません。

地域連携室だより

住民向け新型コロナウイルスワクチン接種事業

千葉県がんセンター副院長 浜野 公明

当

センターは、2021年5月24日より、がん患者さんや一般市民の方に対し、新型コロナウイルスワクチン接種を行っています。8月13日時点で1,275人の方々に、のべ2,489回の接種を実施しました。

ワクチン接種は市町村単位で行われるため、当センターは千葉市の住民接種事業に協力しています。当センターは、国からワクチンが供給され、マイナス70℃の超低温冷蔵庫で保管・管理ができる「基本型接種施設」になっているため、住民向けワクチン接種に協力し、地域に貢献する方針としました。

市が4月15日にワクチン接種券の発送を始めたのに合わせ、当センターはワクチン予約専用ダイヤルを新設し、26日に予約受付を開始しました。当時、かかりつけ患者以外からの予約を受け付ける病院が少なかったため、当センターに予約の電話が殺到しました。予約受付開始後わずか10日で2か月先の6月末までの予約が埋まってしまい、急遽、予約枠を増やしたほどです。予約専用ダイヤルが繋がりにくくご迷惑をおかけしましたが、一方で早期に予約を取れことに感謝のお言葉を多く頂きました。

ワクチン接種場所として、旧病棟1階に特設会場を設置しました。接種対象者が密にならないよう、また、できるだけ多くの方々に効率良く接種できるよう、会場のレイアウトを工夫しております。当センターは、医療の質と安全を重視しているため、医師による問診や接種後の経過観察、ワクチンの品質管理に十分配慮し、安全・確実な接種を行っています。これまでにワクチン接種に関する事故はなく、重篤な副反応も認められておりません。実際に接種をお受けになった方から「千葉県がんセンターはちゃんとしているから、安心できます。」とうれしいお言葉を頂きました。

高齢者の方々へのワクチン接種はほぼ終わり、現在は治療中のがん患者さんを中心に接種を行っています。今後も安全に配慮しながら、一人でも多くのがん患者さんにワクチン接種を行って参ります。(本ニュースの発行時には、ワクチン供給等の事情により、新規予約受付は終了している可能性があります。)



治験の略語：「GCP」と「CRC」

治験臨床試験推進部長 三梨 桂子

治験は国が定めたGCP (Good Clinical Practice：医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令) に基づいて実施しなくてはなりません。当院ではCRC (Clinical Research Coordinator：治験コーディネーター) が約20名常駐し、医師が逸脱なく治験を遂行するための支援をしています。CRCは他にも、治験依頼者(製薬会社など)と医療機関(病院)、登録患者さんと医療者との橋渡しとしての業務も務めています。

治験アップデート

治験臨床研究センターでは募集中の治験等の情報を提供しています。概要は以下のとおりですが、詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

現在募集中の治験情報 R3/7月末時点での募集中試験数は33件

①食道がん	1件	④大腸がん	3件	⑦膀胱がん	3件	⑩頭頸部癌	2件
②膵臓がん	1件	⑤前立腺がん	6件	⑧腎細胞癌	1件	⑪リンパ腫	5件
③胆道がん	2件	⑥尿路上皮がん	4件	⑨乳がん	4件	⑫骨髄線維症	1件

当センターでは以下の治験を実施しています

ホームページアドレス

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/kanja/chiken/jissijyoukyou.html>



看護の現場から

臨時医療施設の今！

千葉県臨時医療施設 師長 鶴岡 香織

2

021年2月4日 千葉県臨時医療施設が開設しましたが、新型コロナウイルスは猛威をふるい続け、毎日の感染者数が増えている状況です。

私自身も防護具を着用し、レッドゾーンに入り、スタッフとともに行動し、患者さんの受け入れや日々のケアを行っています。どうしたら業務がスムーズに行えるか、スタッフの不安が軽減できるのか、患者さんが不安なく入院生活が過ごせるのかを考えました。防護具を着用しての看護は、検温や看護ケアをするにも想像以上に大変なものがあります。ナースコールが鳴っても、防護服を着用しないとすぐに駆けつけることができません。患者さんを優先した看護を行うことは当然のことですが、それと同じくらい、自分自身を守ることや体調管理を行わなければいけません。これまで、患者さんに当たり前にできていたことをしてあげられないこと、最後の看取りのときに家族が立ち会うことができないことに葛藤するスタッフも多くいました。納体袋に亡くなられた患者さんを納めることは、体験した者しかわからない気持ちになり、こころが折れそうなこともありました。デスクカンファレンスを実施し自分達の看護を振り返る機会にしました。限られた環境の中でいかに質を保ち患者さんに寄り添い看護を提供できるか、毎日カンファレンスを実施し、

日々の業務の中で何ができるか検討しました。また、定期的に勉強会を開催し、レッドゾーン専任のリーダーがメンバーの動きや時間管理・ペア体制を行い、ひとりひとりのスタッフの負担が大きくなるようにサポート体制を整えました。

千葉県臨時医療施設が開設して半年が過ぎましたが、高齢患者さんの入院が減少するとともに、若い世代の患者さんの入院が増えています。常に半数以上が酸素投与とNHF装着を必要とする患者さんです。そのため、いかに看護師が患者さんの異変や変化に気づくことができるか、日々の観察力が非常に大切になります。緊張感がありますが、スタッフもやりがいも感じながら日々の業務を行ってくれていると感じています。開設当初の人員は、がんセンターのスタッフと県立病院のスタッフ数名でした。今は、こども病院から1病棟のスタッフが派遣され、お互いに協力しながら業務を行っています。

千葉県臨時医療施設は、がんセンターの医師や様々な部門の方々に、温かく支えられています。そのような皆様と看護スタッフの頑張りにこころから感謝をしています。



お知らせ・報告

県民公開セミナーのご案内

毎年恒例で開催されている県民公開セミナーについて、今回は昨年10月に新病院となった千葉県がんセンターの新機能を紹介するために、「新しくなったがんセンター、なにがどう変わった」をテーマに開催します。がんセンター所属医師が「外来がん薬物療法」「3次元血管内治療」「新しい放射線治療」「ロボット支援下手術」「脳腫瘍光線力学療法」「がん温熱療法」などについて講演を行います。

がん治療についての理解が深められる貴重な機会ですので、より多くの方にご参加いただけますようご案内申し上げます。

- 日 時：令和3年11月27日(土) 13:00~16:00 (開場12:00)
- 場 所：千葉駅7階 ペリエホール A,B
- 定 員：先着順250名程度 (入場無料) 当日先着順、申込不要
- 問い合わせ先：県がんセンター事務局 TEL 043-264-5431



がんになったときからの食事

栄養科部長 若松 貞子

がんになって、その治療には身体に栄養を蓄えることが必要です。

それには心豊かに、好きな美味しいものを楽しんで食べていただきたいと思っています。

がんセンターでの入院の食事では、入院時に患者さんのもとに管理栄養士が伺い、食事の内容・形態、食物アレルギーの既往、身体状況から食事を聞き取り、食事調整をして個々にあった、きめ細やかな食事の提供を行っています。

朝、昼食の選択食を選べる患者さんには、2種類のうち好みの方を選んでいただいています。がんの病気や治療等でうまく食べることができない(食欲がない、味覚を感じにくい、下痢や便秘のとき、飲み込みづらい等)ときには、なめらか食、刻みとろみ食、さっぱり食、口腔食等の特別な食事も提供しています。また、食事の味付けや量の調整、高栄養食品等の付加なども行っています。決まった食事がどうしても食べられないとき、嗜好を重視した個別対応食は、患者さんに変大好評を得ています。

それでも食べるのが難しいときは、多職種の集まり、「栄養サポートチーム」や「摂食・嚥下チーム」が、患者さんの低栄養を防ぐ取り組みを行っています。

以前、冊子『がん患者さんのためのレシピと工夫』を発行していますが、今春、内容を改訂しVer.2を製作しました。センター内の売店で販売していますので、食事の参考にご覧ください。

また、何をどう食べていいかわからないとき、食事が心配なときには栄養指導を受けることをお勧めします。基本的ながんの食事については調べていただけたらわかりますが、患者さん個々の食習慣や嗜好、病状に合わせたテーラーメイドの食事のアドバイスができるのは管理栄養士だけです。管理栄養士をアドバイザーにもって、定期的にチェックを入れることで食事を快適にしていけることができます。栄養科に電話して、栄養指導をご用命していただけたら幸いです。



初診担当医表

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

2021年9月1日現在

診療科	月	火	水	木	金
肝胆膵外科	岩立 陽祐	賀川 真吾	加藤 厚 石毛 文隆	柳橋 浩男	有光 秀仁
ハイパーサーミア	千葉 聡	千葉 聡	千葉 聡	千葉 聡	千葉 聡
食道・胃腸外科	高山 巨 鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 外岡 亨	鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 早田 浩明	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 郡司 久	星野 敢久 郡司 久
消化器内科	傳田 忠道 鈴木 拓人 喜多絵美里 三梨 桂子	傳田 忠道 須藤研太郎 天沼 裕介 杉田 統	三梨 桂子 中村 和貴 喜多絵美里 石垣 飛鳥 今関 洋	傳田 忠道 三梨 桂子 鈴木 拓人 北川 善康 辻本 彰子	中村 和貴 須藤研太郎 天沼 裕介 北川 善康 今関 洋
呼吸器外科	岩田 剛和		飯笹 俊彦 岩田 剛和		岩田 剛和
呼吸器内科	芦沼 宏典 水野 里子	新行内雅斗 芦沼 宏典		新行内雅斗 水野 里子	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 味八木寿子 玉貫 圭甲	味八木寿子 羽山 晶子 玉貫 圭甲	中村 力也 羽山 晶子 百武 佳晃	羽山 晶子 百武 佳晃 玉貫 圭甲	中村 力也 百武 佳晃 玉貫 圭甲
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	鈴鹿 清美	鈴鹿 清美 海老沢桂子 井尻 美輪 草西多香子 糸井 瑞恵 後藤 裕磨	田中 尚武	田中 尚武 鈴鹿 清美 海老沢桂子 井尻 美輪 草西多香子 糸井 瑞恵 後藤 裕磨	海老沢桂子 井尻 美輪
泌尿器科	小丸 淳 篠原 正尚 井上 裕司	野呂 卓秀 馬場 晴喜 錦見 礼央	篠原 正尚 錦見 礼央	小林 将行 野呂 卓秀	深沢 賢 井上 裕司
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 佐藤 昌靖 丸山 聡 (担当医)	武内 正博 辻村 秀樹 (担当医)	熊谷 匡也 佐藤 昌靖 (担当医)	武内 正博 辻村 秀樹 真子 千華 (担当医)	熊谷 匡也 辻村 秀樹 丸山 聡 (担当医)
脳神経外科	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	井内 俊彦	(担当医)	堺田 司
頭頸科	(担当医)	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	(担当医)	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	(担当医)
整形外科	米本 司 鴨田 博人 木下 英幸	鴨田 博人 萩原 洋子		鴨田 博人 石井 猛 (第2・第4) 塚西 敏則 (第2・第4)	米本 司 木下 英幸 萩原 洋子
緩和医療科 核医学診療部	坂下 美彦				
		小川 和行	久山 順平	久山 順平	小川 和行

電話
予約

●初診・再診予約(患者予約)

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

043-263-4071

●予約変更(患者予約)

月曜日～金曜日 午後1時～午後4時

043-263-4071

●医療機関からの直接予約

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

043-264-5633



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車
小湊バス: 千葉県がんセンター行乗車・終点千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

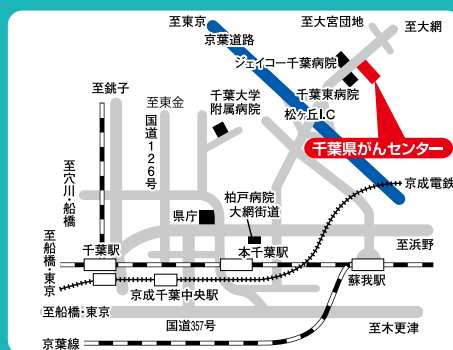
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>